

授 業 目 名	高次脳機能障害学・評価法Ⅱ	授 業 形 態	講 義
		配 当 学 期	2年（前期）
担 当 教 員 名	上村 朋久	単 位 数	1単位
		時 間 数	30時間
授 業 概 要 学 習 目 標	<p>〔授業概要〕</p> <p>高次脳機能障害は、言語・認知・行為・記憶・その他の様々な知的能力、およびそれらの維持に必要な背景の障害のことであり、言語聴覚障害学の根幹をなすものである。このメカニズムを学び、将来、言語聴覚士として臨床に臨んでもらいたい。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>高次脳機能障害により、さまざまな症状（記憶障害等）がおりうる。その症状について理解を深めること。</p>		
授 業 回 数	授 業 内 容		
第 1 回	失行①：古典的三大失行（観念運動失行・観念失行・肢節運動失行）		
第 2 回	失行②：古典的三大失行（観念運動失行・観念失行・肢節運動失行）		
第 3 回	失行③：構成失行・着衣失行・発語失行		
第 4 回	発語失行と運動障害性構音障害の鑑別点		
第 5 回	言語聴覚障害と高次脳機能障害の関連性		
第 6 回	言語聴覚障害と聴覚失認との関連性		
第 7 回	言語聴覚障害と発語失行との関連性		
第 8 回	言語聴覚障害と失読・失書との関連性		
第 9 回	小児の高次脳機能障害		
第 10 回	右半球損傷と高次脳機能障害		
第 11 回	頭部外傷と高次脳機能障害		
第 12 回	高次脳機能障害における職種連携と言語聴覚士の役割		
第 13 回	高次脳機能障害の評価とリハビリテーションについて		
第 14 回	高次脳機能障害のスクリーニング		
第 15 回	まとめ		
評 価 方 法	定期試験80%、提出物20%		
教 科 書 参 考 図 書	〔教科書〕 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学（医学書院）		
履 修 上 の 留 意 点	高次脳機能障害学・評価法Ⅰの復習をしておいて下さい		
メ ッ セ ー ジ	実習でも必要な知識が多く、よく復習して理解を深めて下さい		